

## 自然にはかなわない人間

この時期になると、海や川でおぼれて亡くなってしまおう若者のニュースが届きます。昨日は関の長良川で高校一年生の男子生徒が流されて死亡したという事実がありました。十代二十代の若さで命を落とすということに、いたたまれなくなります。

暑くなると、こういう水の事故が多くなります。私たちはこういう事実を知るたびに一瞬同情はしますが、心のどこかで「不運」のひとことで済ましていきます。

それではいけません。やはり、命を落とすということ、それも、将来ある若者が命を落とすことを、何としてでも防がなければなりません。そのためには、なぜ若者が川や海で命を落とすのかを考えなければならぬと私は思います。

無知だということが、その原因の一つではないでしょうか。プールで泳ぎをマスターしている若者たち。泳ぐということに関しては、私たちの世代など足下にも及びません。

それにもかかわらず、川では深みにはまり、海では沖に流されます。それは人間が到底かなわない自然の恐ろしさを知らないということが原因だからだと私は考えています。

川が汚れ、今の若者の水に触れる場がプールとなつてから、ずいぶん長い時間が経過しています。どこに深みがあり、どのように水が渦巻き、どの流れが速いかなどを、若者が身をもって知る由がなくなりました。「淵」や「瀬」と言っても、どういうところか知らない若者も多いと思います。これは、ドライブテクニクはあっても、実際の公道に潜む危険を知らない初心者ドライバーと同じです。

「先生たちよ。あれ以上沖に行かせてはだめですよ。引き潮に体を持って行かれますよ。」

海を見て興奮する生徒たちを見ていた島の方たちが、私たち職員に忠告してくれたことがあります。校長に代わって海の研修に引率に行ったときの話です。

やはり人間は、自然にはかなわないと認識し、自分たちの行動に対する謙虚さをもち合わせることで、自分の身を守ることにつながるのではないのでしょうか。もうすぐ夏休み。今年の休みは短いといえども、危険は必ず潜んでいます。謙虚に生活してくださいね。(八月五日 記)



普段おとなしい土岐川ですが.....